一日正午網勝選遊ばさ 天皇 皇后瞬陛下には

見の模様を説明し安達國門、町田民政

側はかゝる局地的問題で母支 九日騸東軍の通告に對し支那 九日騸東軍の通告に對し支那

の管轄下に置く左の如き行政ル大統領は米領三群島を海軍ル大統領は米領三群島を海軍

444

於て無理な云ひが たる態度を執るか

直に撤兵

高橋武官へ通報

既草寮を口奏御繭を婆下した。

百三

「「ない」の日本のでは、「ない」の日本のでは、「ない」の日本のでは、「ない」の日本のでは、「ない」の日本のでは、「ない」の日本のでは、「ない」の日本のでは、「ない」の日本のでは、「ない」の日本のでは、「ない」の日本のでは、「ない」の目が、「ない」の言は、「ない、」の言は、「ない、」の言は、「ない、」の言は、「ない、」の言は、「ない、」の言は、「ない、」の言は、「ない、」の言は、「ない、これ、「ない、」の言は、「ない、」の

本 長の御先導にて奉送の諸負に 東軍諸星、駐滿大使館、開東 はせられた 東軍諸星、駐滿大使館、開東 はせられた

の皇帝陛下し

内に駐屯の宋哲元膺懲に闘す

京當層に大韻動を異へ、折柄

金一封を実

京婦へ関

六士休憩所へそれぞれ

宋哲元狼狽

何應欽に指示を仰ぐ

會並に政務整理委員會に對し 武官は十九日午後の軍事委員

り へあり、仄聞するに書談は宋 本語 「本語」と同趣旨の聪明 入京中の称介石氏は十九日朝 本王精衛氏、黄ブ氏以下十七 本語 「本語」と同趣旨の聪明 入京中の称介石氏は十九日朝

荒木氏夫妻の

封寄附

高橋武官關東軍聲明手

南京政府から

急遽撤退方嚴命か

哲元に急遽撤退を嚴命する

はせられた(寫真は新京្

首相、齋藤前首相訪問

對議會策懇談

施政方針演説草案も内奏

齋藤氏から激勵

訪ひ、察東の情勢を報告し今 日午前十時居仁堂に何應欽を 日午前十時居仁堂に何應欽を 日本前十時居仁堂に何應欽を

し且有效適切なる處置を講ず | 宛通報して来た

洋上三群島に

米國が軍政を布く

日満當局に圓満解决方懇談

返したが、來

水る二十三日午後 水る二十三日午後

事務販長は各方面の

一旦登口に引

廿三日來着

なつたことや、小部に、來たとだった。

五時三十分階、家族

旅順 國皇帝陛下 御避寒遊さる 日一十二

ばされた、これより先帰頭に 略式鹵簿にて宮廷を御出門遊

正めとなつたので、御里獨 | 務總理以下各國務大臣、各参都合により皇后陛下には御 は皇妹二格姫を始め率り鄭國られる御禮定であつたが、 ばされた、これより先驛頭に 府灣樂部の奏する滿洲幽歌吹 奏裡に御機嫌麗は うらゝかな風光を愛でさせら

皇后陛下には行啓あらせられず とて岡田首相を激励した 通り擧國一致の支援を求め 通り擧國一致の支援を求め あらり、而も此際旣定方針 首相葉山

公平の立場で政府の施政を質

大麻幹事長開會の挨拶に次で議員地方議員等三千餘名川席

行ひ、櫻内幸

【東京関通】國民同盟は殿正

不信任案不提出

前總裁其他貴衆兩院叢員、評職員の聯合會を行ひ別續き午後一時から黨大會を開き、町田新總裁を始め若視開き、町田新總裁を始め若視

安護總裁が二回も剛田首相の し不信任案等は出さぬ模様で 招宴に出てゐる程だから國同

しこれに對し、富田幸太郎氏手に迎へられて就任挨拶をな

た後、町田總裁は満場の拍

【東京國通】岡田首相は廿日 結局不解散か - 七議會 のと親られる

る論戦が 「東京関通」第六十七黨會も 「東京関通」第六十七黨會も 「東京関通」第六十七黨會も 「東京関通」第六十七黨會も 一方政府に於ては臨時騰會以 熾烈な論戰は豫想

は、めて居るもの」出來得べくん 要議案の無事成立を企及し三 の質を擧げんとして居り、他 以 業首との懇談其他局面打開の 工作に大童となり、出來得る 工作に大童となり、出來得る 工作に大童となり、出來得る 工作に大童となり、出來得る 工作に大童となり、出來得る 工作に大童となり、出來得る 工作に大童となり、出來得る 工作に大童となり、出來得る

を誓ひ引鞭き大會に移外の助力と挨拶を述べ次で若槻前縄裁

雅 れない、勿論議會中に於ては人権蹂躪問題 ・ 禁問題に就ては相當の波瀾 の如き事前に豫想されて居るが、斯 の如き事前に豫想される諸問 正而衝突を見るべしとも観ら 散風遊の要望が强く、從つて錯綜を極め、大勢としては解 難問題が競 異常な心理作用から突發的に 導くことが

1 東京四通】民政黨大會に於 るに至つた、内外時局多端 御推敷を受け總裁に就任す をでする。 の際其任 御推敷を

危機に逢着しながらも結局解 ぶ、 今 踏會の 散無しに無事終了すると云ふ 推移 界機測は幾多の に對する一般政

無いとは云へない 生し最悪の事態に

キングマンリーフ群島が散その南方約六百海里の地點

里の洋上に浮ぶ岩礁の群島ではハワイ群島の西方約六百都

せられた事は我黨の諡國家

1:12

3 200

影子は、概整らず一間は の出が、凝りかへつてみ

致す次第であります、 任を完ら致す様切にお願ひ

居る模様である 事實上は無人島同然の島嶼で 洋上の飛石を形成するもので 発生の飛石を形成するもので 即ち之等の島嶼

左の如く語つ の酸展乃至酸略軍事

在平支那側

機關

んど居住者無く從つて何等は何れも米國領土で從來殆 ▲山口十脚氏(同上鐵道部次 長)詞上 一十日午後五時三十分治大 一十日午後五時三十分治大

吉田醫院 內科·X光線科 小兒科。物療科 連から大和ホテル投宿 ▲質傳吉氏(大阪會社員)同 上率天から ▲団中公氏(同上)同上 ▲団中公氏(同上)同上 ▲団中公氏(同上)同上 ▲四中公氏(同上)同上 ●四十分音率 一十日午後十時三十分音率 一十日午後十時三十分音率 一十日午後十時三十分音率 一十日午後十時三十分音率 一十日午後十時三十分音率 一十日午後十時三十分音率

は今国轉任に際し青年同志曾

また同夫人から新

室町東一條角 吉田秀雄 四中末雄氏(滿鑼社員)同

武田新所長

栗る見込みから今回始めて將來之等諸島の居住者が出 ものであるが然し政府は 入 事往來 電話五九一一 (公學堂前) ▲竹森豊男氏 (満級社員) 二十一日午前七時 憲天から 大和ホテル投宿 大和ホテル投宿 「大和ホテル投宿 「大和ホテル投宿」 ▲丸山郁之助氏(大連市産築 課長)二十一日午前十時發 十一日午前九時着奉天か高鹿四郎氏〈磯路總局員〉

か既然の早く退ける日に、時子

さんを、芝居にでも観察してあ

ることなどを踏して、

「さうさう、お前が楽たら動ま

きから見ると、だいぶ壁つてる

歌とくらべて

一十一日午前九時五十四一十一日午前九時五分藩最安か ▲他田良夫氏(東京帽子問屋 二十日午楼五時三十分着拳 一十日午楼五時三十分着拳 一十日午楼五時三十分着拳 一十日午楼五時三十分着拳 一十日年楼五時三十分着拳 一十日年楼五時三十分着拳 一十日年楼五時三十分着拳 一十日年楼五時三十分着拳 一十日年楼五時三十月日屋 一十日年楼五時三十月日屋 一十日年楼五時三十月日屋

でも飲歩して、どこぞで御歌で ちいどうちゃ。これから親座へ

るといふ

しかし、今日といふわけにも行けて欲しいと思つてるたのちゃ

さらかとはってるも

からおく

も御院走してあげて買ひ たい

にから云った空のからちをさつ

軍事的價值重 本野原素氏〈軍政部太長〉二 本野原素氏〈軍政部太長〉二 一日午護五郎三十分曹奉天 十日午護五郎三十分曹奉天 「午鑵玉崎三十分着孝天忠衆氏(軍政部太長)二

回了 昨日舉 總裁 の推蔵式 行さる

中谷時計店旗部

(東京園通) 民政黨では町田 土 新職裁の推立式を兼ね第六十 間 陣容 定するにめ廿日 政務調査會は大議を滿場 60 薫總務幹事長、 七歳會に臨む民政陣容

午後一時自動車で葉山御用邸に伺候 天皇陛下に拜謁を仰付けられ、施政方針演説内容を上奏、御裁可を仰ぎ歸途薬の心避寒中の齋藤前首相を訪い悪談、勝京した

関長其他の役員を任 引續き

同出席し同五時盛會裡に散旨 別室 成の招待會に一

頼母木氏が 我黨の爲一層の御努力あら 更に君國の爲

んへ

京灣、 京灣、田中武維、中島彌園 類母木桂吉(總務主任)試 類母木桂吉(總務主任)試 類母木桂吉(總務主任)試 が、大麻唯男。勝田永吉、 が、大麻唯男。勝田永吉、 內崎作三郎



政務調查會長 永井柳太郎 て云った。 でした」 と、膨子のはらへ振りかへつ



ひに幹部諸君の御凶力と常



野子は、原田の職族をう どおくれて

舟殳

日華里頭加大浦コンゼル商金

限り(間の消印あるものまで受飲) ●應暴の期間 昭和十年一月三十日 ●應暴の期間 昭和十年一月三十日 ●答案は必ず官製ハガキに振る「答案の書き から受付けません) 東京南荒川區日暮

がちに、 月 正解者には

けてどぎまぎしながら、

あたくし、何もわかりません

と、消へるやらに、答えたの

みをあて



蓄音器

供案内とエンゼル携帶書音器

正月發賣新譜目 最新式8式電氣吹込み ヱンゼルレコー

脚すやうにするだけだった。 よつと離をもげて、あたりを **密意してゐて、てきばき順節す** 能子は、それには答えず、 たが、いつのまにかまた、戯い 「東京は、とうですか? と、まるで、とつてつけたや 質り女性ではなかつた れがちになってゐるの あたりを見 谷古

らず誠に天下の興望を搬つ 男の統
準指導宜しきを得た 勢力は獨り全國黨員のみ対域の爲身を挺して盡せ 居る所以は實に同

((禁上映上演轉級)) 作合 九八人感激時代 = 3 最後の切札 大附養文集) 一、競田川解析子 一、教子 一、教子 一、教子 一、教子

限りある人生川夏川 「はあ」 CD 郡江作

あれは三枝さんへ。こつ まは、すべて父の婦みどほりに 類にもなれなかつた。どうせ婚 するよりほかあるまいと魅つた と、答えたが、べつに迷惑な

では、 お父さんも、如何です

とか云はねばならねと思つたの 腹をひをして来よう』 で行って來よう。二三中に配る いまのうちに、

答は

でもするやうに立上つたのだつ 観座の松屋の前を歩いてゐる

さて

なんでせう

三、宣傳の工 0

三、機会の丹 0 左 ゼ

方き書の案答 (裏キガハ) · 答 大〇內

三つです

・が入れてあります。なんと云ムレコード 人公はだれと二つの答を考へて下されてせらか、俳優はだれ、映画

◆映画で有名な大河内博水郎が一九三五年が一大快作として映画ファンを整在地をあた ものは林不忘氏原作、日活映画版代家、身 下左膊です ◆左の三角の幕翼を切りぬいで貼り食

課

答案。莫

数左の如し

犯罪檢學數

蒙古村を訪

南コロラス族は崇徳元年に礼 でもまで約三百年の傳統を持 でもまで約三百年の傳統を持 でもまで約三百年の傳統を持

喝一、銃砲火雞取締規則違公文實僞造一、傷害一、魯公文實僞造一、傷害一、魯

正府と親公署で旗長を札薩克 教部による旗政を布かれ一等 旗となる。現在行政の中心は である。近く改組されて蒙

その間に王公か又は貴族の

南軍司令官

駐哈部隊巡視

であます、毎年夏と多の休に美しい行爲であると喜ん

赤塚校長感激

で関を割いて東北農村に蓄捐 では同寺鎮守豐川稻荷新版に 金を送つて非常な賞讃を博し では同寺鎮守豐川稻荷新版に

平康里の檢黴を前に

先づ健康診斷

けふから三日間

断を行ふことになつた

て喜ひに堪えない次朝です

本年最初の稻荷月例祭に相當 初稻荷祭明二十二日は

とに決定したのでこれが準備 日間駅町四丁目満人科亭吉順度は楡よ四月から施行するこ と協識し二十一、二、三の三段は楡よ四月から施行すること協識し二十一、二、三の三段は一般を表現している。

吉林憲兵

てゐますが、生徒が自義的暇に實習生を各方面に送つ

新京記念公會堂の反消

大會

(=)

場は開會前既に立錐の余地な側一千四百余名が押しかけ會 包まれたなかに岡田聯合會長だつた重苦しいまでの空氣に を興へ次いで決勝(昨夕刊掲 を関い次いで決勝(昨夕刊掲 を三唱して午後六時疎會裡に 終了、同七時から主催着側は 大和ホテルに各地代表を招い 大郡、テルに各地代表を招い 大郡、第一登階を開いる意識

世ン代表)我國には当より として高潔を誇つてゐたも として高潔を誇つてゐたも として高潔を誇つてゐたも として喧嘩を賣つて出る 敵として喧嘩を賣つて出る をとは實に不然合である、 などとは實に不然合である などとは實に不然合である などとは實に不然合である。 は、共存 有所により 本葉を 有別の日系官更は果して出る などとは實に不然合である。 などとは實に不然合である。 は、共存 を、共存 谷口益太郎氏

○満洲國官吏は吾々商人

聯合會長等

けふ各方面に陳情 消費組合の全面的擴脹方を陳手交すると同時に痛剥騰官吏

荷大祭なれば参詣者も多からを厳修する由、開運守護の稻は午後七時より盛大な供養會

米山福造氏 表)吾々は満郷消費組合に 表)吾々は満郷消費組合に 大って過去十数年間質に活 しい奮闘を續けて東た と思ふ間もなく今回突如滿 銀門費組合にも増した滿洲・ 銀市費組合にも増した滿洲・ 銀市費組合にも増した滿洲・ 銀市費組合にも増した滿洲・ はなくまでもこれが撤襲を となくまでもこれが撤襲を となるまでもこれが撤襲を となる。

辻川 佐助氏 (吉林代表)今回の日系官吏の擧が 長であるか非であるかは一 目瞭然たるものである。あ くまでも阻止の目的を質撒 したい

中田氏 (本来であるである) を書きるとうない、今天代表) 今面 は 一田氏 (本来であるである) なが 如き 乗撃にも なが かない、今度の 前と いんとする の 立場を かった は 商人を 手級 とする の である が 一田氏 (本来である) である。 同胞 は と いんとする もの である が 一日 氏 (本来である) を 一日 に (本来である) を 一日 に (本来である) を 一日 に (本来である) を 一日 に (本来である) に (本来である) を 一日 に (本来である) に

滿鐵消費組合

確する 他する 他する

已は簡年あ

清武新陵大双龍和太大瓊九羽藝棚吉祖 水廠 邱葉光歌汀 の州ケ 野羽 川山海川山山山島若浪浦山嶽昇甲岩湊



專門店

新京毛皮洋

h

五

負左の

H 目力

是非御來店を……・

登覧街 かけもたれ いっぱい かけもたれ いっぱい かけもたれ

キッ食二泊一式斧和(負會ーロウビ。トスリウツ。ンパヤジ

(ルテホトマヤ前) ルテホ際國 座銀ンビルへ)街道三國外°ヤカスイタキャー 番ー 〇八五 表代 開電



行こと美鳳亭方へ客を装ふた を職慄せしめてゐる―廿日午 を職慄せしめてゐる―廿日午 を職慄せしめてゐる―廿日午 强盜橫行時代 同日午後六時三十分ごろ城内 北市場三十五號張敬臣方へ滿 洲國軍服を齎した二人組の强 姿が押入り帶劍を投き家人に 実付け「金を出せ」と脅迫し現 れも巧みに 二人組强盗押入 去した、享年五十三 一 に逃走

祝町三月回四

松山出身濟水中將關下今回滿洲〇〇〇〇司令官として業 把北端より二十三日御來京を機とし愛媛縣人は閣下の野 記 一、自 場 唱 一、會 場 唱

大氣堂

話二四二五番

の作用品は

若干名を來月下旬大連で試験を行つた上趾員に採用する希望者は來月十日までに志願書製麼書、學藥成績書その他書類を總務部人事課へ提出すること、

農業學校及び鐵道學校卒業滿鐵では中學校、甲種簡、

中等校出身者

蔵末各方面で働き得た金を

「東京園通」政友會代議士林 は豫想以上の入場者好成績を 金十三國を提審逃走した 関記念公會室に於て開催中の が様作氏近く 満洲果樹和合主像林檎展覽會 が高いた。 「東京園通」政友會代議士林 は豫想以上の入場者好成績を が一次では、一次では、一次日か と脅迫し現。 「監合」に終了 ら三日 の一次では、一次日か では、一次では、一次日か では、一次日か では、一か で

に動きな単の社會で日本 の光に溶してみないが、建國に男像女単の社會で日本 の光に溶してみないが、建國を美しいものは全部王 以上はコロラス豪族の素描でで美しいものは全部王 以上はコロラス豪族の素描でで美しいものは全部王 以上はコロラス豪族の素描では厳として十七才までのあるが、同族は最近漢人の進聞を王公に仕へて闘家を 出のために漢人化しつ」あるれることになつてゐるが けれども、同族の最高によつれることになつてゐるが けれども、同族の最高によつ、時はその娘の附添人と ことが出來る砂漠に水と草を化嫁と一緒に配家に贈ら 民族、この豪味な民族に近代ならないといふ悲し 文化の光を興へることは王道田にある、更に平民の娘 國家に課せられた仕事であらりような場合には家奴とう、かつては全世界を健撼さる人が蒙古に新蒙古建設の鐘が ためずる場合には家奴とう、かつては全世界を健撼さるの家の奴隷の娘が同した革命見ジンギスカンを生命を表して、もつともんだ蒙古に新蒙古建設の鐘が ためずる場合には家奴とう、かつては全世界を健康さら、かつては全世界を健康さら、かつては全世界を健康さら、かつては全世界をという。 双)の腹は約一千人にも達し 双)の腹は約一千人にも達し で、まだこれらの奴隷は王道 で、まだこれらの奴隷は王道 の光に浴してゐないが、建國 せたが午前六に見 りが離みに見 りが離みに見 を飛ぶ粉雲に と飛ぶ粉雲に と飛ぶお雪に と れたが りひょ 度を示し前年 時の最低氣溫

温が低かつた 温が低かつた 度三廿

一回腰體會を閉ぢた 授興式を舉行し終會を以て 被明外來賓多數列席の上褒 廣告

申込場所 0 御用は 東曙 三笠町三丁目 町四丁目

7

オー

マタイ

自動

車賣助

フ

オ

J.

元乘用

望の方

電話六九〇八

三笠町三丁目(電二五一三番) 吉 明四丁目(電五八二一番) 寺 尾 政 第 帝 尾 政 第 帝 尾 政 第 帝 尾 政 第 電三三〇〇番 ^

> 新京 朝日 通八十一新日通日抜の場所水道、瓦斯、電氣、風朝日通日拔の場所水道、瓦斯、電氣、風 亞 話木 西九子 E

地ル

事 務 室、

歡着

チオ普及 及 株式 會社

洲 速 ラ 通

邊柳藏氏以下組合員新京地方 は午後一時より會場別語に於 は一後一時より會場別語に於

騰寫版

十一時 零下二十三度最低 十一時 零下十六度

文房具及附屬品

清水

中將歡迎會

助度圖便關ノ加就電上大陳拜 賜キリ益ス康入テ話國ナ者啓 リ存以ヲル價勸ハ株策ル弊 昭度念テ圖凡提誘満式釜ニ社時

和此二放ルユ供、洲會行鑑ハ下 段御送トル、聴電社ノミ満嚴 十特座事同サ故取信公一之洲寒

睾年ニ候業時 | 障料電認助ガ國ノ

トノ監一務長タノシリスト 御貢倒般等ラルエテ以及 敬指獻的聽ラヂ聽有滿字命 御致加者オ機者候電化」 具援シラノニ具ノニ信向重

シトン販集普回弦徒至ョ何ニ立 佐存事賣金及ラニニラリ分努頭 舊居ヲ竝事株デ弊空ザシ本力初 数ノ候期ニ務式オ社費ルテ格ショ 御ニシーノ會普ハセ現改的只り一個人の一般行以般一社及放う狀善放管多具助右テサ部トラ送レニト送漏大

にパツタリ、左四ツー

所しる、場合してか、「おうツ

と諸魔男しく関力士は微く立

と たるるーツ。ゆる、前後か動 たるよと見えた絵鑑像月の毎の六

一合実きあつて、すぐ

位々なかの中がは意吐く機に申

なかくくこれが合は丸。 「一人の間に息を疵らすー」。ジリフ・ジリフ。力を離めた四つの観。 「一人の間に息を疵らすー」。ジリカーのでは、四本性は射を襲つて、 でいっ、ジリフ。力を離めた四つの観。

に、ぐいと抜きあげて脏に釣上げ を でし、一個り掘った。と見る間 を でし、一個り掘った。と見る間 を でし、一個り掘った。と見る間

気水に辛抱すれば古日たり かに安らかに

帯々とせざる 日

(此が、一個門の海ーツ。

土は白々と賑を撒いたの

見くも見物の軽はかれてしまつ

戦闘が勝き返る。

1度。11度0

ツと思った。

矢立川は、なぜかじりツ、じり

仕入りたの

四度――。

職の叫びか―一試つた線に威略

白帽八幅社の土表に上つた二人はらは矢立佛――何といふ遠ひだ。

東間からは、暦月の前、匹間か

明日は天晴れ、天下の大鵬を張ら十朝と草相能。今日は天下の開散

構へた定は―

うとしてゐる二人だっ

た

(可認論便郵酬三等)~~ 辰已藝妓

は、

跨銀平他二氏章 行友李風階

「唯一一ッ勢門の勝一一ッ矢 場所一杯の呼びが上つた。 一間ツの」 鈴木彦次郎 9

間な社に目ませすると、四人の年 常は直ぐに譲いた。 パッと行司は二人の背を吹いた。

たいた拍子に、身を守いて際に といいた拍子に、身を守いて ペルン 即び土表の属中へ戻った。

配は、今して急温を定る疾病の響

数呼の際・場架のどよめき、

が、種には軽くも上手、鍵を引い

個人のかは、とつさに、「う」

ヘックヨイロヘッケヨイー」~

綿のお手で

八時

京石川吟醸 電話四八十〇番

新綿も各種豊富に取揃へてあり▼受渡貫目は正しい▼ 打 直 は 迅 速

三量通失中京新

粉京東公園裏通

製綿所

む、公つて、力瘤を際に盛り上る 一部戸の前イー」「矢立門ア

と、ぐいと願って密立てた。

●二黒の人 冬少の骨折はあ 「大持接心に乏し奮酸すべし 所と丁と辛が吉 らず慢ずる時は過失を生ず 申と未と申が吉 申と未と申が吉

ゴトウ 6 3 5 6



八目丁一町菜篷京新番八四九五話電



證券投資 利殖と愛の とゝから 出發します 賃に御家庭の將來を さて其選擇には 太 店

申以次第传贈皇 松式白報及循 昭和松年度

動もまたよ 野い地は お料理一 新京梅·技町丁目夕 宴會 是非!!

三七二五 家 (前局便野) 階ニルビ鮮福 社會式株造酒西川 丹伊縣庫兵 America Charles WAT LE STATE OF THE PARTY 日本 Side of the second

取 御 利 如

仲買

電 通り 四 乙町士富七八六話電 町士富

夜三回入替

奉天省公署

北澤製版所

篇一く行を地髙最の品作館心安津小

主 子惠理雲八●武本坂 演 子美內坪●子蝶田飯

量弗 公分

現 五四三 月月月 物◆限限限 豆

第三国第三国第三国第三国第三国第三国第一上海標金 本日寄 炎30 300 本日寄 炎30 300 本日寄 炎30 300 年 1 三国 100 日 1

(奉天國通) 現在滿洲に於ける官商合辨或は民營の滿人側る官商合辨或は民營の滿人側とれたの方面へ投資すべく企嗣せるが主たる 重視を 有機なので一般株主には利益金の配間には所有株券を費却して他の方面へ投資すべく企嗣せる 者相當數に上つて居るがこれを率外人間では早くもここで着申し糖益獲得と將來の建した見越して株券の買収をなす者現はれ斯菜者の注目を 意いて居る

火通り

間商會宝后部

は

Q

ンピルハ

入北林妖術ヤカスイタキ番三四六五話電

二章 工

たる 満ツ厥國共同の 旅るであらう、右に関し堀

路標識新設改修に

の如くである、從つて

ル船舶局長並にブラゴユ埠頭 響を以てハバロフスクアムー とに決定し、雨三日中公文 ののでは文書によつて行ふ ののでは、 ののでは、

[奉天國通] 鞍山昭和製鋼所

外商筋が着目

電影大

鞍山のピツチ

電語三〇七五番

一後は文書

戰

同盟

ソ聯側に嚴重反省を求む

共同水路作業中絕

とが出來るさで

工學博士 内田俊一氏談 云明治初年に於けるわが國の化 品川ガラス工場等はこれであり、 に比すると非常に後れてゐた と共に技術をも輸入したので あるが、大体に於いてそれが あった、即も何から何まで置 わが國に於ける化學工場なるであった、即も何から何まで置 わが國に於ける化學工場なる あった、即も何から何まで置 わが國に於ける化學工場なる あった、即も何から何まで置 わが國に於ける化學工場なる あった、即も何から何まで置 わが國に於ける化學工場なる あった、即も何から何まで置 わが國に於ける化學工場なる あったのである、 宮岡 争迄の間のことである、 今や の製絲場、新町の紡績所、 深 吾々は先進國と同等な資格に から 製絲場、新町の紡績所、 深 吾々は先進國と同等な資格に かいてメント及ひ煉瓦工場、 於いて明日の化學工場を語る フト

明日の化 學工場の第一大考へると當然すぎる程當然 であるかと考へるに一口に 一の特 微は で、何も化學工場に限つた事で、何も化學工場に限つた事

でしも上手ではない、故に人気 如何なる環境を必要とするか を研究した上は、かいる環境 を研究した上は、かいのである があるではないのであるか を研究した上は、かいる環境

然の力が作つたもので人はた 質石は及ばぬのは、この條件を供 に未だ缺ける所があるからで 人造實石ではなく、矢張り自 作つてやる迄のことである、 作のではなく、矢張り自 環境を作ることに於て 断をやる惧のない、熟練、不熟断をやる惧のない時によつて意外の誤

化學工場 等の自動装置 お盆々多く用ひられ、又盆々精密な正確なものとなる事はけだし明らかである ら、明日の
ら、明日の

多少八不均御用便气

世 銀 街 千番のこと

家屋

本

介紹御宅住 舖店

土地

超軍

家屋

市營バス 0

電流が 金融 で 一九三番地 一九三番地

「ハルビン國通」交通統制の 最後交渉となつてゐた市内乘 合パスの買收も相當の迂餘曲 折があつたが結局市公署が汽 事公司より六十四臺を買收す ることに決定、新車二十一臺 を加へ都合八十五臺で市營バ スとして二十日華々しく開業 十二錢を十錢にいづれも値下 げを斷行圓タクに對抗するこ ととなつた 因债物業債券 保証

電話 賣品 語 社 主急買受度

電話用達部 融 開 金 融

電氣治

電話五五〇四番

上多數 東三馬路無線豪下電五七三六月電台である大楽田窮者の相談である大楽田窮者の相談に應ず

高橋療

ま

واواوا 外のも俗風淵滿。石寶。形人俗風 をし越おへ内構鞭京新度一ヒゼ ▶番三四五六話 電◀

回 قالما المحالية

设合 **小津安二郎監督** 廿日より 三日間上映 座

第一篇「鉞り組『踏篇』維新の大楽を目前に薩摩神用盗との大楽を目前に薩摩神用盗との大楽を目前に薩摩神用盗と

副

T

87

一匡衡

內科 產婦人科、耳鼻咽喉科 外科 花柳病科

○和洋百貨廉賣

→和洋百貨廉賣

一月二十三日॥

市野町一丁自申米

百貨廉賣場 丸 新 洋 行

紐育極東運賃

一弗に引上ぐ

では、 では、 の大阪本社入電に依ればニューョーク極東運賃同盟では の設訂に決した り改訂に決した では、 の大阪本社入電に依ればニューョークを東運賃同盟では のでは、 の 一、曹嶐灰は三月一日より六(舊率十三弗)

共同委員會の経過並に交渉停に於て開かれた滿ツ水路會議

水路協定違反に對し嚴重反省 を求める事となつた、かくて 之れを皮切りに今後ハルビン とれるものと見られる、これ がため當分アムール船舶局との は、かため當分アムール。

の事務官は語る の事務官は語る 対上これからの對ソ交渉は 文書を以てなされる事にな 交話を以てなされる事にな

以上これからの對ソ交渉は 文書を以てなされる事にな らうがソ聯側が依然非合法 的態度を續ける限り交渉再 開は絶足だらう、解氷期に なれば何とか打開も出來や うとの話もあるが今のとこ ろ前途の強測は全く許され 質

上海の

理 (舊率五弗牛) 一、機械ミシン類は三月末日 ・ 機械ミシン類は三月末日 ・ 機械・シン類は三月末日

决濟延期運動

【上海廿日愛國通】上海共同
和界の市民聯合會大會は年關
和界の市民聯合會大會は年關
持續像を決議し廿一日午前の
施工團体緊急大會に提多せん
とし交渉委員を深ひ、上海市
長吳鐵城氏を訪問請願する
をし受渉委員を深ひ、上海市
長吳鐵城氏を訪問請願する
統制上否定せらるべきものだ
た述べ引取らせた。仍て市民
聯合會の右決濟延期決議は實 りの五千順は滿洲沿線各地に 順當り八圓二十鏡位で煙臺方 順に塗し此の中五千順は一 順なり八圓二十鏡位で煙臺方 輸出組合

輸出統制强化

東二條通りと 電話五人二九番 関語 五人二九番

まは

廣告

思しき破婚の女性、なみ子は如何にして世の荒波と闘つて行く!美しきが故に、あまりに純情なるが爲めに、生活の壓力は彼女にとつて重荷であったその後のなみ子は………… 風 寛祚 大佛 大郎 第一年 大佛 大郎 野村 金吾 曾根 千晴 野村 金吾 相郎 比佐 芳武 神色 比佐 芳武 神色 比佐 芳武 神色 比佐 芳武

花咲く樹

大スターの一大競演!!…… 大スターの一大競演!!、新興五志賀曉子、鈴木澄子、新興五村田 宮監督作品(中篇)村田 宮監督作品(中篇) 新京・大マ

一日公開

日本海日滿 連絡船敦賀行 清

|| 北日本汽船

せら

東屬荷扱所 中國際運輸會社支店 大阪商船株式會社 大阪商船株式會社 大阪商船株式會社 大阪商船株式會社 大阪商船株式會社 大阪商船株式會社 大阪商船株式會社

常報國

朝海本外

病無國政府公報 (本語師) 関州日新聞 (本語の) 関リ日新聞 (本語の) 関リ日新聞 (本語の) 関リ日新聞 (本語の) 関リ日新聞 (本語の) 日新聞 (本語の) 日新聞 (本語の) 日新聞

5 大阪商船出机

と茶道具の

みどり茶園へ 用命は吉野町一丁目

賣廉大品殘皮

老 日期 一月三十一日限引

お 春 母 3 ŧ 特新 許案 比 0 子 守

着 荷 皆様のお店として

(東二條通交番の) 魔 憲五 ミル 生の障 一一丁 目 1000

路 答

三人 九會

小人 名 位

「新年宴會を左記の通り開催致しますかまい追て本年は我縣出身青各科亭より奉場を紹會にしますから通知洩れの御方や人會と御出席の御通知下さい、二十三日午後正五時(當日御持参ノコト)

最 後 の大 見 切

四外相は右方針に基づく東亜全局の和不招米のためには日安集等関係の醸成を認めその一、 支票管局の骨配 コー、 支票管局の骨配

政府との交渉を一層緊密且である。事態以来幾多の難問題に常認した有吉公使の闘朝を求めこれを機會に當地公使を贈引を使いる。

の實を舉げんとする用意ある 管域不侵略に關する政治的協 完締結に進んで此處に日滿支 完締結に進んで此處に日滿支

何させ他方陸上

外相の包藏する

對支外交政策

を殊更に曲解宣傳する鴬部 を殊更に曲解宣傳する鴬部 の好策更らにこれら不誠意 なる輩の妨害により對外問 なる輩の妨害により對外問 なる輩の無力、これらに 野し延當と信ずる解决 野に於ける立場並にその使 を自覺せしめるために充

等が先づ實行に移される重大 事項と解せられ事態の推移如 むるため事實上の獨裁者たる 下介石氏との直接交渉を提議

日支親善關係の醸成に邁進

3

らう、何れにしても議會は ら不足を生じた場合には實 情に即して協費を求めるた けの言明で問題は片づくだ けの言明で問題は片づくだ

缺無火 同交公 同 研皇 所曜 和俱樂部 員屬會會族

百個 百五十八方 三十十五五十八方 三十十五五名名名名名名

電的に関係大臣の演説に對す 日午前十時本會觀を開き修頭 田外相の外交演説あり、 で廣田外相の外交演説あり、 で廣田外相の外交演説のり、

るが、二十一日正午質問通告 お敷名の順位決定の爲め抽籤 の結果次の如く決定した 一、坂本俊篤男

脅の論議の中心となるのでは

論が唱へられてゐる際であり聖と其の獨立性より見て改善 の監督に関しては司法権の神 て起つものであつて檢察事務

ひ沿線都市に潜入する匪賊のでは昨今奥地の掃頭工作に伴に讃力しつつある間島協助會では昨今奥地の掃頭工作に伴びは昨今奥地の掃頭工作に伴いる。

益

R

·無解散

(東京國通)二十二日再開休 雷明け議會に臨む貴衆兩院各 形の二十一日正午現在の勢力 分野左の通り

國民同盟 民 政 黨

三百六十二名 三十一名

缺計無第 所整

四百三十六名二十五名三十六名

日二、加藤政之助氏日二、加藤政之助氏日二、加藤政之助氏日二、加藤政之助氏

雨者の説報 で見り日本 で見り日本

意見の交換を遂げ

検察事務の監督に闘する件

間島共助會

圖們に支部

屬室

員

貴衆兩院各派

0

1

備

ふ

3

財界の満洲を大きない。大が減大臣職式数千年が減大日本が減大日本の満大日本の

部に高橋麓相を訪問し数氏は廿一日午前十時

日滿諸問題で意見交換

を述べたる後約五十分 に高橋藤相を割し一順 に高橋藤相を割し一順

族院側の觀測

院質問順位

政界表裏事情

問題は積して居り

は 今職會に事毎に政府、政友間は に緊張した場面を展開し爆弾 かと云ふ事態を惹起する農れ のと云ふ事態を惹起する農れ に當つては出來得る限り政友 に當つては出來得る限り政友 に當つては出來得る限り政友 間無しに無事切扱けたい意向 を有してゐる

たすら念願

政府の對議會方針

関務院統計處では將來の普遍 を得る驾特定の村落を調査單 が統計調査に對する参考資料 地方、保紹關査を實施し多大の 意思を得たが更に其の徹底を が果を得たが更に其の徹底を が果を得たが更に其の徹底を が果を得たが更に其の徹底を が果を得たが更に其の徹底を が、さ

電業、変数、豪政等各部及土 地局と協同して調査班三班を 社會調査を行ふこととなつた これに先だつて統計處に於て はこれが準何調査を行ふため 一月十六日處員を前記各地に 派遣した

政治經濟上に甚大の貢獻をな情を知る上には勿論滿洲國の

のであるが其の調査は一般民

ら注目されてゐる す割期的試みとし

に變化して行くか多少の異しこの間に政民の連繫が如何、無解散で終るであらう、唯

朝

製度 定本 全數 調艇

一心

以精酒

員產

曾の立役者として活躍する プテリツ | 熊員で今後ソ聯共同技術委 | ものと見る

ッア氏はニコライエー

フスタ港務部長に轉じた

頁八共刊夕紙本

数行所

management

图-位 年

阁

攻防の秘策な をはられ

爆彈動議の後仕末を中心に 政友の動向注目さる 味がある

が闘明せられ 業質並に公債政策の調整の必

有條件として災害救済の追加 相より意然たる政府興黨の旗色を闘时 更に衆議然たる政府興黨の旗色を闘时 更に衆議然にある は正式に、漢首推 表明し終

議會の無事

切拔を

國務院統計處で

策として種々副業が考究され カマス製造 カマス製造

群人農民の 副

加局長東 に依れば、曩に轉任を命ぜられた水路協定ソ聯代表アムール船舶局長メッテリッツア氏の後任としてモスクワより交通人民委員會委員イワノフ氏が此程着任した、同氏はモス

加局長更迭

によれば十四日 南洲國領空内 に張来、
・機は緩雰河特務機關に達した情報
・機は緩雰河上空に用現の直
前同地西方四キロの地點に清
のなること判明した、特務機
陽では事實確認の為め右目撃
のなること判明した、特務機
のなること判明した、特務機
は対し上記濟建の事質を指摘
たい対し上記濟建の事質を指摘
たいがある。

交部

から嚴重なる抗議提出

微察事務の 憲法學の權

監督について小原一方面より注目されてゐる。「成者美濃部博士が一寸べく要求するかに關している。」な相に對し如何なる點を改

闘して各

對

參與首腦會議

聯合會主

議會答辯等を協議

們婦人會は來る二月十一日の

豊か一

鄉村社

會調

政治經濟

の貢献期待さる

圖們 でも國

默况其の他十數項目に亘るも 質、教育、配會、宗教、勞働

質、教育、社會、心

臧民政部大臣

身体強健、家計富裕、且地方を舉げたる者にして品行方正 する者、或は地方公益に質績ケ年以上行政事務に經驗を有 以上の學歷を有する者及び一 去る十

澤震民 電話五四三六

ことを宣言すること」なった 防婦人會なるものを組織する 防婦人會なるものを組織する

以上、五十歳以下の中學卒業以上、五十歳以下の中學卒業 政刷新奏 方制度改革を機に村政の (率天

くどちらに身方するものでもらどうするかは問題だ▼といれそうにも思へない、これかれそうにも思へない、これかれ

面には掃師討伐の各警備隊の 関語賊の宣撫工作たる本來の順語賊の宣撫工作たる本來の順語賊の宣撫工作たる本來の順語就の宣撫工作たる本來の ■門支部の鎌倉式を奉行する を得た複様で近く間島協助管 要認して居たが愈々其の諒解 も自覺して安い品物が買へた 動機となつて商人側が幾分で 互譲のもとに圓満に解決出來 に消組側もこの際よく ふ噂がある

一日午後五時半新京着あじる。現所と事務打合せのため二十 囑託 藤田拓務 廿一日來京

漁業問題につき昨多來沖取漁 を開始した、外務省としては田水産局長は外務省局と討議

正を希望するも農林省では一約改正は部分的とし補足的

農林省では全面的改訂要求

一、條約更新期を八年目に短一、漁獲制級緩和 延長・ロシア國内法録告期間の

▲高橋勳一氏(同上旅客主任) にて京闘線北鮮方面へ出張 二十一日午後六時五十分發 下村豐吉氏C本社營業局長フ 時に消し飛んで終ふない景氣▼これで消組計 問題だといつてみ、一問題だといつてるのでは死活を 至滿日滿商店協會 (同上庶務長) がに近頃に 性も 說 द 空前の上 大生ハイキングの大話を表する。 頭蛾 菊池 寬

移民團の實地緯察に赴く模様
京の上都合では佳木斯へ農業

第の

数言い

高永恭助 名力士座談會郷地 粉造殿空屋王谷譲次 にんな新しいこんな 数 **獣國探檢記**小進節 の恋情甲賀三郎 胸が躍る快作と絕議の蜀山積!ゼヒ御覧下さいこんな新しいこんな設利たる忠臣蔵は始めてだ。 でも大評判! 流に吉川氏墨生の力作! 基 時 宗祖物 まったの 大島

小時代

世音大坪草二郎

門送 **华東** 込京 五、政治概要

蒙旗

熱河省に於ける一

関都の新春はいが、二月中

分の二は出揚つてゐるためなり、低に、奥地在海の三なり、低に、奥地在海の三

好意的是々非々

(=)

全幅的に政府支持

的事態が競生せぬとも限らな 作職が驚め消長を決定すると に顕重考慮を纏けてゐるが、 無解散策想が強いとは言へ標 が動職の後約末等につき実験

國同の對政府態度 なると共に責任を分つ無運が見たので其の對策にも用心してといる、對政府態度は是々非々といる。対政府態度は是々非々となる、対の支持をつたのが積極的の対象を対した。

政府職麼は從來通り好意的是一一日の大會の安連總裁演設十一日の大會の安連總裁演設 を最村救済を焦層の無とし十年度豫算に一部分では質現させ十一年度豫算に必ず計上せしむる方針であるしなる方針である。 【東京國語】爆彈動調或行に 足並揃はず

するやう誘導の機様であ 一歩を進め今講會では**政** を誤案したのは解者の關

主義を持す り、主流幹部は假令政府が二 り、主流幹部は假令政府が二 が設置を示して来れば同意子 が設置を示して来れば同意子 できるのとしてゐる、三常首 會合も政府側と薔薇友子は政府 本地数に爆弾動業へも考慮を 本地数に爆弾動業へも考慮を 正陽響祭廳の

られ殿府を通じて自然の政策 主張の管現に努め殿友會との 政友會に對抗せんとするもの み組くである 職友會内の硬敵兩派の抗争和 意面の旨を嫌べたる事實あり 開田管相をのは抽象的に政策 意面の旨を嫌べたる事實あり 関連相をのは抽象的に政策

体の機構改革は、

來年の皆既蝕

に 着手し左の 如く 機構改革の緯譽から轉任して以来、改善

學者連準

備を進む

【東京鵬通】昨年春は日蝕を見んとて軍艦を仕立て南洋へ行つたが来年六月十九日午後三時十八分から二分近い皆既蝕が北海道で見えると言ふので 趣者達は早くもこれが準備を始めて居るが本年六月のベリーにおける臓際天文聯盟總會に代表を送り世界の學者を勤誘すると

之に

大き互利を挙げて居る

も漸次見直して來たために、 お方面にも直接反映して悲觀 されてゐた舊正前の市中景氣 した、特監界の景氣恢復は滿

末氣分濃厚となり久方ぶりに俄然正腸衝筋は活况を呈し蔵 監督署

間にある小銃、拳銃の質上方【象化支局】縣警察局では民

銃器買上

一好であるが成績顔

芳輔 正道

敦化料理屋

好材料績出で

特產市場活况

舊正前の哈市明朗

六十銭位の時、手が

之を一昨年に比較すると約十 に脱竹る昨年の營業税收入高 に於ける昨年の營業税收入高 組合

新年宴會

幸田

鼗

取取常頭 締締 役役務取

監 取 新役 公

藤駿

能查役

表替裏替

土

町五丁

岡豐

五萬間の減板で之が原因は斯之を一昨年に比較すると書い |本天省の範 陽係方面を招待、同九時敬會的東門外『招編』に於て開催的東門外『招編』に於て開催が年度のは十五日午後五時か新年宴會は十五日午後五時か



便の雪め脈 **首都響察廳巡官** 給七級俸(各通)

同

へ昨年度は事髪により支拂は を動は財政艦を通じ借代とし である である 開通な

現在に於ては完全なる兵制な

内と雖る之を充分に發揮す

は最寄願長に参管するを例と を執行する司性事故に於て さへ傍観の廊で置大なる事故 に終て は、一般の原で置大なる事故

治療受付

正午より午後三時まで

然たる展別なく武官即ち文官を作表し印鑑を強強に分ちて之に震長を任を職族に分ちて之に震長を任を職族に分ちて之に震長を任めてゐる。又一族

1月紅支局) 窓安、東京、 組織に活

首都警察應警佐

事無く常識的に處理し清朝時 代の畸形を保守して居るに通 ぎないしかし傳統的、王に對

首都警察應警佐 首都警察廳廳官 首都警察廳巡官 目都醫藥廳巡官 杉

甲

兒

料科

杏

林堂醫院

電話II五II○□

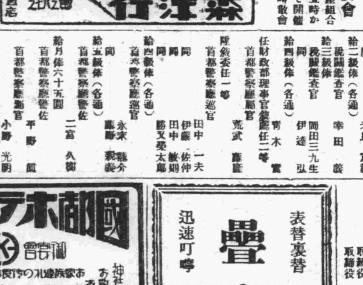
首都警察廳譯官衆巡官 中山 竹雄

积棧好况 1907

首都警察廳技士 首都警察愿警佐 **藤永** 下田 親離義介 神社あ巻件で会園

番五一四四表代話電(城南江神)通典中京新 市献立八番日紀洋電大阪操へ下市調理的ソマス 市定義/市舗院等世また。日本リカ下部/通りチス 記憶 (新一半200 華の人) ※ 80 明 ※ 100 市子様光空 ※ 4 80 日間 (大陸 ※ 150 ・まるがに連転しかあった 知識・半150 ・まるがに連転しかあった 知識・半150 ・まるがに連転しかあった 知識サンドウエッチ洋南平単館は他の単節県物 ・ 形学賞失出前出張 お調理教シマス ●

記話四七九〇本









を 通機闘

みて既に幾多の失敗が指摘さ よに於ける既成都市の例に鑑 法に於ける既成都市の例に鑑 都市の美を形成する

尙無數の失敗が**競見されるで**

- クランドの幻影を夢に城なウイルスやバツカードや大通りを縦横に疾騙する糞

だけの期待を

布しなから関都の大通りを も非常にむつかしい問題

情景が表

7;

算報告

B

楷

視察團を組織し感謝の意を地議和會の肝入りで友邦員 して選まんと非常な意気込み 観けて居る因に本年度は 滿洲國 辭令

目方

税關碑事官 給四級俸(各通) **税** 務監督署副署長 古黑礁溪署事 棟夫 合 損益計算及利益處分

昭和十年一月二十日 爾和 島名 職十郎 南 島名 職十郎 一月二十日

題(呼)コ

北京華北天骨董ヒスイ商 * 店

4品 目▶ 絕好 金石珍ピフ 佛珠不石瑚瑙聖綠玉玉 七續珊瑪碧子漢舊各珠 人 母 母 印 日 種

舊

翡

高

價

1/2

 \triangle

新翠

Ξ

條 て

運 買

0 チ ス逸する 勿れ

產 最 П

ます何本店内御一覧下さ

店より

品買求め皆様に破格提供教し

內

寶

石

董

格賣

Ш

百学士上 電話五七九五方 A

外科花便原料

たが の時に 電 豁 新京朝日通 五九四七番

及預問題に觸し大會の決議に 表き各地代表は石崎廣大郎氏 表き各地代表は石崎廣大郎氏 北決職文を手交、満洲國官吏 北次職文を手交、満洲國官吏 での結果について岡田小太郎

日本人理事約三十名、滿人書記約七十名募集のため二月二十四日より新京へ選事ン大連事天へ書記)の三ヶ所で採用を大会を行ふ事となつた、選事の受験資格は専門學校卒業生の受験資格は専門學校卒業生

店組合ではさきに七十銭の値 タフェー組合、新京第一料理 出

上の練駅を新京署保安保に提出したので同係では以來沿線の情況並に新京カフェー界、特理店につき調査を進めてゐたが扇理合の陳默による七十銭の値上は余りにも過ぎ

非年からカフェー、第一科 連店輛組合から七十銭の値 上棟駅が提出されてるたが 東子各地の情况を調査した 変す各地の情况を調査した をころ各署とも同様の値上 をころ各署とも同様の値上

た(寫真はスケート大會)がて午後四時盛况裡に閉ぶて午後四時盛况裡に閉

新京体育際盟劍道部との劍道 当下滯京中の在来國第二世と 対合は新京体聯主催の下に二 十一日午後四時から商家學校 連場で奉行、火の出るやうな

各組合とも五銭を値上する模様する點があるので現在よりであるのと且つ又考

岡田

貰へ

金融合作社

左黨の脅威

ビールの値上

ちかく愈よ實施か

週間の豫定をもつて大阪方面前七時新京驛第ひかりで約一
鮮誕土沼田勇氏は二十四日午

沼田辯護士

相穀城

に出張の・

▶目科業營◆

製機上表新 械

造床敷替疊

米國第二

ンメ玉 1エ 小 大 高 リ蜀 ン 粉ケ黍 豆ド 豆 豆 樂

11,00

谷次長、西尾參謀長、吉澤十一日我々代表廿數名は阪

公會堂の利用多く

建界 消費組合設立問 大同廣場一帶の店舗建築に に 二の足を踏む投資家 ま

根本的檢討

十二月一年十種昭

十四日配念公會堂に集合して その態度を明かにすること、 なつた 消組に對する第三者の批判

大郷的に之を検討してゐるや競表當時とその趣を異にして対する第三者側の批判は設立

あるが新京の各區長は二

意のある處は

を ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ 新家権人組合で行はれてる ・ さがその後の一等常統者は次 の 三名である 置されることとなつた 當籤者

大賣出景品 其後の一等

無にも拘らす観楽 一郎十一時より吉 のに於て華々し で、銀盤上零下

清水中特は愛媛縣松山市出身 で幼年時代から頭脳明晰軍人 シ志し以来その成績優秀榮進 して現在に至つたものである して現在に至つたものである は川島大將と共に松山 大路と場に松山

振つて御參會されたいと 振つて御參會されたいと

類に満洲國官東消費組合問題 軍の懇談會と題する記事は毎 国治組問題で購取

二章言

一否やは未定である。

正誤

附夕刊第二

等子 略宮竹勝、曙町三丁目版本 北安前岡田村飯雄、興安大

百林に

H

0

全國滑水

頗る盛會を極

00

家敷設間

ア平バ

detta

賃金備取所

〇五五九一三

理勝したことになる 開業ホッケー部は本 | 一三八 | 一三八

ē 5 新民社主催音楽 ・ 瀬 語) ・ 瀬 語) ・ 瀬 語)

双頭の鷲の下に 中奏 紅田 号 神奏 紅田 号

象通報、番組開星四重奏團 番組 ジピーマシカ 四 ¥

ズノーフ作曲 コーヤ女史

Ö 〇 時報、ニュース 小説(東京より) 小説(東京より) 外 伊奏音樂等 外 伊奏音樂等

アペマリヤ ガーノー作曲 アペマリヤ ガーノー作曲

経會室より

中夕織

本吉岡に市氏(大和 四番地)十八日午 円谷が亡 號)五女京子さん十日田徹台氏(羽衣町二丁 田里

午前五時四

| William | Wi

二八五話電

水式 ト家 月 水四型 式平平 所疊疊 六六

疊疊

新京特別市新 五與業株式會社本新發屯清和街第一〇 卜家 六十九圓 前 四新京號 ili 三張 五所

應 只 朝日通り八十 護 會

電 話五 (新京普通學校前)

九

番

6

玉 商 30

0) 東三馬路獲撥留所摘

淞 製造 話 六 73 Ξ, 所

食堂完備電話附會賦事務所又 六番 外交員入用●

(金マークタイヤ) 73

特殊な新型トレッド。 耐久力 可倍加ス ダンロップ設調協泉総式官司

丁 四 鳥

書記長

眞殿氏に內定

在鄉軍

人四百廿名

1誰んで感謝の繰り数に身に祭に感激の除り数に身に

五十八歳翁の 平壤から半裸体で來京

令部の巡視を行ひ午**後四時**

産

火) 会部を巡視、彼いて安井〇園 の軍狀報告を受けそれより司 の軍状報告を受けそれより司

り板垣参謀副長、縁田、林田の伺候を受けた後午後二時よ

牛ヶ月間に千五百圓稼ぐ

脳を

連日引張り凧

世のとも限らず、これを訪ら では牧変千五百四もあれば どうにか事足りることになっ であるが、この意外の好況に ながらこの好況は當分つづく と見てもいづれ将来には低下

經營上の心配無

を期することであり、これが 単衡金の積立が必要であるの でこの際稼ぐだけ稼いで相當 の絵幣を残したいとえらい電 無込みである、なほ利用の増 加につれて軽要も自然膨脹し で結局月々千圓が丸~残つて

一杯かゝつた宮崎薬房

詐欺

るは被助調問フ電 講像 で 蔵を成にラック無ね ある進交ン會線で

或重新越代理路 中谷時割后

佛滿無線電

ph'

り羽衣町三丁目十七號惣太郎氏(兵庫縣)大

は獨身舍宅向十八室廿七圓より五八圓まで緩房、襲台家具付、風呂、食堂完備電話附

梅枝町三ノ六

都

襲台家具付、

風呂、

住

消

息 ξ 〇四六 Ξ

貨

一袋 Fr

·句開始

ーシン

意 三笠町二丁目十五番地宮崎楽 蔵前後の内地人が出て来ては 別ので店員舗口秀一君が前記長 つたことを知り直に新京署に ので店員舗口秀一君が前記長 つたことを知り直に新京署に ので店員舗口秀一君が前記長 つたことを知り直に新京署に ので店員舗口秀一君が前記長 つたことを知り直に新京署に ので店員舗口秀一君が前記長 つたことを知り直に新京署に 日本 三笠町二丁目十五番地宮崎楽 蔵前後の内地人が出て来て 日本 三笠町二丁目十五番地宮崎楽 世紀 「日本 1000年) 日本 1000年 10

歡迎會

獨立OO職司令官に英轉した を援縣人會で 世界一

小學校父兄會へ金州圓を客附 に際レ子女在學記念に西廣場 の荒木前地方事務所長は離京 水 ッ ケ

優勝

▲正屋卯一氏(山形縣)同上ち高砂町四丁目二號ノ二へ
・本土屋卯一氏(山形縣)同上へ

商

全滿中等學校

めさきに軽筆者に後頭し在郷 | 百名。在内地郷第三百二十名)に井砂更にその光質を計るた | 疾補者四百二十名(在蔣殤軍 | 瀬川橋軍政部では関軍の整備 | 軍人から國軍の軍官及び軍員

和で競表されること、なつた 人職する人名は二十三日の公

滿洲國軍人 二月一日所屬部隊に入隊

新京記念公會堂の書記長は専 が便宜擔當して居るが候補者 として前大連鴻線社員俱樂部 書記長質設星磨氏が内定して 語る標であるが質設氏は高鏡 語の標であるが質設氏は高鏡 を持ちる動れたる手腕家であ

スケート 大会 第七回議鐵中等學校聯合スケ が放入校の下に行はれたが、 新官百様は下に行はれたが、 新官百様は下に行はれたが、 新官百様は下に行はれたが、 一下は第三位を占めた、

電話 四三 0= 一四 番

電話四九〇

本抜けた野郎で

ばり、仲間でございます。が、少いたれは、龍の然公と云つて、やついて既を購つた。

「これは一人の化業ではありませ が、二人三人、寄ってたかって斬 をしたもの。そして死艦を捨て置

も生きて行く以上、毎日一定量

痔核(いぼち)痒痔(かゆち)

見えます。お藤、四郎 西山聖庵

に数ヶ所の血

の紙――鋭利な勢刀で切り、それを懐ためると、身

居ると、それがか

総構費れる世の中です。

が、本側は側らずがかずに丁度手 を要さず、且つ自分の手で観光 を要さず、且つ自分の手で観光 を要さず、且つ自分の手で観光 を要さず、且つ自分の手で観光 を要さず、上の自分の手で観光

保管も(電話)一何物)

ても臨時倉庫

四六二番へ)

かぬ病状の悪化を搭來しま

お話のほかですが、

肛門近い直腸

時の痛さ、つらさは消息

新發明

と、異な

つたやうた痕。殊に融腹のは相當

めが、姿をかって、

との姿から戦 矢坂立六

らわずつたいでいんだ。

では、現場、ひでえ事を……」
「おい、見貴、ひでえ事を……」
「ハウハウハハ、まア懸るな……」
「ハウハウハハ、まア懸るな……」
「おい、見貴、ひでえ事を……」
「おい、見貴、ひでえ事を……」
「おい、見貴、ひでえ事を……」

す。数分変は魅って來て、驚いて特つな分がありましたが、その留

たいたします。 で無に故臓がおこりますと発射の で無に故臓がおこりますと発射の エネルギーを擧げて肛門部へ集中 の場合を描さらと一致密

をして要中の発売率がごし (

はか

說明

進呈

見えます。外に三人の靴を受 この三人が同意してやったも

物を 喰へねばならず、喰べるからにはその残 たばならず、喰

ら、子之松といふ名が、脳の松公

分署長は日派書を取った。

かけら一つ整つて形なかった。 がけら一つ整つて形なかった

と、丹後が云つた。金銀の類は

ととで歴史は解決するものであり

手傾で患部を切り取つてもとれて痛さ、痒しなど止まつてしまひます。

を切り取つても後の

洋 行

れでは近畿を襲撃数せればな

(日

株がきれましたのは、近頃、矢坂安穴 中級に大総、元結、拓横の権 来て、所に大総、元結、拓横の権

一門後は、その、

半ば結構れ、

四4

曹通の通じでさ

「死骸がある」

異様に叫んだ。)

曜

一丁度、山塞で、風やひ



長

35 معيم ان

書 雄

涯 田

世

のならない

婆羅門

ちを取誤

循環清淨鄉

機設置

安牛

全・優

クリ

ーニン

(五十二)

丹後は、山麓を出て行く時から

たこと等を考へると、年賞の機めま、失阪の観色の健りがえなかつ た事、実験の観色の健りがえなかつ 時が飛た機に思った

「とうなったら、有能に地上げま 横たはつてゐるので、一笑版立六郎離鼠といふ釈迦組 と、飛後は、殿がに地震を作つてをります 『これはー』 と、飛後は、殿がには、一貫を置しませら、私は、敵がい鳥跡だった。」 丹後は、驚いて、

で少しは知られて苦りました者。 数の その上、儒學のがでも悪中、世 も、腰平とした武士で、柳川徹です者でどざいます。元は、これで 今では、こんな恥しい縁楽に「あつ!」 物階がで を拾って、かサム と描き立て がられる。 まって、自ら真先に、 続太

皆さんー

A

他三名が襲きつた。 二人を案内者として、分等数が動一二人を案内者として、分等数が動へ向ったのは、丁度明治八郎のたのは、丁度明治八郎のない。

い鳥跡だった。 して見ると、丸木柱の焦げたのが して見ると、丸木柱の焦げたのが

町6~記号

『蟾跡を潤返して見ろ』

嚴寒に際してぜひ= めいろう

目種業營

食料品雜貨

和洋酒罐詰類

世帶道具一

御諸 用官 達廳

がら昨今患者の変訪が非常に殖えて來たそうです。 に猛威をふるふシーズンに入つて各地の肛門病院では例年のことな 傳えしたい痔家庭療法 びしい寒さが解々と骨身にこたえる今日此の頃 たしても寿持ちにつらい霜と吹雪と空つ風が遠慮なし

ばん症狀增悪するいま、充分な手當を講じて再び苦痛を繰返さない ように心掛くべきではないでせうか。 るやうな激痛、 痔で苦しんだ經驗ある方々は、まさかあの身を割かれ 不快をお忘れではありますまい。そしたら夢がいち



程の激痛を催しても便所へ入るの水郷に増悪し、終には堪えられぬた権み軽みが寒さがつのるにつれ も痔疾は其の著るしい例で一寸しくて始末の思い季節です。なかで さのため、冷えにもとづくいろ(~な病 してはならな いのであります。

させなくなる などの影響から血の流通を顕滑 効果から見て 立が最大の病因

婚したり下手をする くする危険が動くな 取る外

膿んだり腫れたりたどれたりす

此の意味に於て単に思部を切り

物保存旅法の方が鑑に安心で効果。 大学の方が鑑に安心で効果。 医野の発生を促す薬が悪いをより私 事でなければなり まりとなり、附近の組織をいためから後からとふる血が大きなかた のふる血が一ケ所へ停滯すると後のなる。 は一たん使命を果し

新京祝 田二 医九 Š 5

差 非 弊 店 へ 京祝町新京◆ 京

回(太子堂東省)

興安大路 吉田野 长 佐学博士 長 医学博士 典重門角 吉田病院 日下新議中日 武岡 吉田秀雄

オセロ洋板膏は三十銭、五十銭、一個、二個、木セロ茶板膏は三十銭、一個、二個各地藥店にあります發賣元。東京級座一ノセリます發賣元。東京級座一ノセリます發賣元。

山運送店 四六二番) 電話二四六二番新京祝町三丁目十三番

贈

^

は是非情味粹な哥澤に嬉野へニュースを 荷物發送到着

II.

る

性

に

女

本 家 B 庭 0 ŧ

こ各々の職は充分その効果を表はし他の効力と

りますから御信頼の上御服用下さい。

行効に且衛生的に調明されたものであ

電話三二〇五

の六 四七街

京ダ

新京室町二十月一 電話五九二番 主

月3下は頭。手に 經、腹を痛。足を 不・痛。眩*冷。 順。み 量。込。 効 血、ヒステリ ٥ し宮 け 産 是 肩 注 疝 注 神 と 前:の氣:經: 産:の感:衰: 後:疑:胃:弱:

津

10-1A

本店 支店

監括南二五振巻大阪四五六 電話日本橋六三振巻東京六〇八 電話日本橋二振巻東京六〇八 東京市日本橋 區 通 三丁目 東京市日本橋 區 通 三丁目

t 康 健 U

元氣に溢れて

今年こそ!

どんなに 職悪が襲って來ても冷えを知らず、月經も正調に、頭痛眩暈や産前産後のかろくな苦痛も打ち忘れたやうな健康酸のなるない。 六加減まで加減中野湯があります。御客體(によりて本郷には第一加減より第 りいたします。加 すればそれに適合 お知らせ下さいま した中將湯の服用がぜひ必要な事でありま 減藥十一日分二圓 した加減薬を御送 ¥ .20 ¥ .50 ¥ 1.00 ¥ 2.00 7日分 15日分 23日分 ¥ 3.00 40日分 ¥ 5.00 85日分 ¥ 10.00

誇るべき和漢藥の相乘的 に含まれ

た

最近和震樂が復興し、この研究が學者を始め一般大 家の間に非常に旺盛になり從で新弱質を健康機に募く 家の間に非常に旺盛になり從で新弱質を健康機に募く 家の間に非常に旺盛になり從で新弱質を健康機に募く を以たものばかりでありまして、其の有効率は他へばひられた機多の和後樂は總で婦人を思に非常な効力をも配作用のないことを寒災いたしますと、原料に用然も配作用のないことを寒災いたしますと、原料に用 何故かと申しますと標準した要種の聴を適量に用的に増加するのであります。 時け合ひ強い方を現はします。『皮毛利元就の矢の師は「一様では折れ易いが三本重った場合は其の方は一様の三部より総かにより心上の方が生れると同様な一様の三部より総かによりい上の方が生れると同様な一様の三部よりを強を調整性形を強いが与のるが中が場合は往々作用であります。天涯を利して戦いまはしき歌作用を使う構造がで用いる場合は往々作用であります。『皮毛利元就の矢の師とを調整を調整性形は型に構築されたして戦いを通過で用は型に構築されたして戦いません。 中将西は原料を概ಪし、近世科學の実施を行く最新式 が出来るのです。